【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】令和6年3月21日(2024.3.21)

【国際公開番号】WO2022/264608
【出願番号】特願2023-529592(P2023-529592)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｂ　6/03(2006.01)
Ａ６１Ｂ　6/46(2024.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｂ　6/03　５６０Ｚ
Ａ６１Ｂ　6/46　５０６Ｚ

【手続補正書】
【提出日】令和5年12月14日(2023.12.14)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１４】
他の態様に係る医用画像診断システムは、統合判別装置は、第一判別装置へ医用画像を入力した場合に第一判別装置から出力される第一正解データ及び第二判別装置へ医用画像を入力した場合に第二判別装置から出力される第二正解データと正解画像との組を学習データとして学習された学習済み学習モデルが使用される。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１１０】
図４に示すＣＡＤ処理サーバの評価結果に基づき、ユーザはＡ社製ＣＡＤ処理サーバ１６ＡとＣ社製ＣＡＤ処理サーバ１６Ｃとは特性が類似していると把握し得る。具体的に、図４に示す例では、Ａ社製ＣＡＤ処理サーバ１６Ａ及びＣ社製ＣＡＤ処理サーバ１６Ｃは、同一の医用画像２２について、異常候補の検出を行う。すなわち、同一の医用画像２２に対して同様に異常候補の検出を行うサーバは、特性が類似していると把握し得る。また、Ｃ社製ＣＡＤ処理サーバ１６Ｃに比べて、Ａ社製ＣＡＤ処理サーバ１６Ａの方が、医師の確定診断に採用された判別結果の回数が多い。すなわち、医師の確定診断に採用された判別結果の回数が多いほど貢献度が高く、少ないほど貢献度が低い。これにより、ユーザは特性が類似するＡ社製ＣＡＤ処理サーバ１６Ａ及びＣ社製ＣＡＤ処理サーバ１６Ｃのうち、相対的に貢献度が低いＣ社製ＣＡＤ処理サーバ１６Ｃの使用停止を検討し得る。また、ユーザは、最も貢献度が低いＢ社製ＣＡＤ処理サーバ１６Ｂの使用停止を検討し得る。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１１２】
また、結果統合ＣＡＤ処理サーバ１８は、判別処理回数における異常候補の検出回数の比率が規定以下の場合に警告を報知してもよいし、判別処理回数における採用の回数の比

率が規定以下の場合に警告を報知してもよい。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１１６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１１６】
例えば、肺結節について、肺結節の性情及び発生箇所等に応じて別々に、ＣＡＤ処理サーバ１６を評価し、肺結節の性情及び発生箇所等に応じてＣＡＤ処理サーバ１６を利用するか否かを最適化してもよい。言い換えると、病変の種類や発生箇所に対応する領域毎に、複数のＣＡＤ処理サーバ１６Ａ，１６Ｂ，１６Ｃを評価しておき、病変の種類や発生箇所に応じて適したＣＡＤ処理サーバ１６Ａ，１６Ｂ，１６Ｃが利用できるようになっていてもよい。